2024年度　町田市立山崎小学校　学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和6年3月31日

学校教育目標　：人の心を大切にし、知性と感性をはぐくみ、心身ともに健康で、人間性豊かな社会人の育成を目指す。 そのために、互いの人格を尊重するとともに、地域の一員としての自覚をもって社会に貢献できる子どもの姿を具現化する。 〇目指す学校像・・・・・・・・①子供が笑顔でいる学校…子供が学ぶ喜びに満ちた楽しい学校 ②教職員が笑顔でいる学校…子供の学びを支え導き、指導者としての喜びや充実感に満ちた楽しい学校 ③保護者・地域が笑顔でいる学校…通わせて良かったことを実感できる、地域の誇りとなる楽しい学校 〇目指す児童・生徒像・・・①最後まで諦めずに頑張れる児童　②自分と他の人を大切にできる児童　③元気あふれるたくましい児童　④自分たちが住んでいる町を愛する児童 〇目指す教師像・・・・・・・・①認め合い、支え合い、学び合う教師　②一人一人の児童に寄り添い、肯定的な児童理解に努める教師 ③保護者、地域の願いを受け止め、信頼関係を高める教師　④教育公務員としての自覚をもつ教師	学校経営の重点：【地域で学ぶ　地域を学ぶ　地域と学ぶ】 重点目標の成果と課題 VCと地域連携教員の連携にによって、地域連携活動は計画通り実施された。特に第6学年で取り組んだ「山小探検隊」では地域にある13の事業所で児童が体験をさせていただくことができた。その後の実践発表会でも保護者や児童相互で学びの成果を伝えることができ、学校の活動と児童の成長を知ってもらうことができた。さらに今年度からは学区内にある町田工科高校との連携もスタートさせることができ、地域連携を広げることができた。 保護者アンケートの回答率の低さは課題である。学校で行われている教育活動についての保護者の関心度を高めていかなくてはならない。今後の地域連携活動を中心に保護者が教育活動に参画できる機会を増やすことで、保護者も地域の一員であり、学校・家庭・地域が連携して子供の成長にかかわっていることを強く訴えていきたい。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境や人材を生かした体験活動を企画し、実施する。その他、タイムリーで積極的な情報発信と受信・共有を行う。	ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用する。	4　年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3　年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2　年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1　年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満	3.3	B	A　学校評価アンケート「ア③①地域連携教育活動」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ア③①地域連携教育活動」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ア③①地域連携教育活動」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ア③①地域連携教育活動」肯定的評価　55%未満	83	A	コミュニティスクールとしての活動と学校の情報公開について、保護者と教員の評価に乖離がみられる。これは保護者の回答率が3割を下回っていることも要因として考えられる。より確かな評価をされるためには、地域性を考慮しても最低5割の回答率が必要ではないかと考える。 ホームページの更新頻度は今年度減ってしまった。日常の記事を上げるのが校長のみになっているのが大きな要因である。 地域連携活動においては当初の予定通り実施できた。VCとの連携もできている。	保護者の学校教育への関心度を高めるために、保護者の授業協力を必要とする活動を今よりも多くする。また、学校公開日以外にも児童の発表参観等を設定し、学年だより等で呼びかける。 ホームページの記事の更新を学年や専科で月1回程度行い、日常的な更新を校長以外にも複数できるシステムを作る。	子供たちに様々な経験や知識をもつ人々に触れさせ、多様性を身に着けるために、地域人材のさらなる掘り起しが必要である。 学校からの情報は地域にとって一方的なものになっているが、保護者にとっては意見を言いやすい雰囲気を学校は作っている。	B
			コミュニティスクールを通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。	4　必要情報の90%以上を周知・意見交換 3　必要情報の80%以上を周知・意見交換 2　必要情報の70%以上を周知・意見交換 1　必要情報の70%未満を周知・意見交換	2.6	C	A　学校評価アンケート「ア②①地域との一体化」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ア②①地域との一体化」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ア②①地域との一体化」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ア②①地域との一体化」肯定的評価　55%未満	90	A				
		積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。	学校だより・学年だより、ホームページの更新で保護者の安心できる情報を発信する。（スクールサポートスタッフを活用する。）	4　週4回以上の更新 3　週3回以上の更新 2　週2回以上の更新 1　週1回以上の更新	2.3	C	A　学校評価アンケート「ア③①情報発信」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ア③①情報発信」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ア③①情報発信」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ア③①情報発信」肯定的評価　55%未満	95	A				
			保護者の気持ちに寄り添い、良好な人間関係のもとに、教育活動を積極的に公開する。	4　教材研究を十分行い授業公開を行い、指導に満足している。 3　教材研究を十分行い授業公開を行い、指導にやや満足している。 2　教材研究を十分行い授業公開を行い、指導におおむね満足している。 1　教材研究を十分行い授業公開を行い、指導に満足していない。	3.0	B	A　学校評価アンケート「ア④①教育活動公開」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ア④①教育活動公開」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ア④①教育活動公開」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ア④①教育活動公開」肯定的評価　55%未満	100	A				
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	授業をデザインする8つの取組を踏まえ、子どもが「分かる　できる　つくる　楽しい授業」を展開する。	1時間の『めあて』『まとめ』の明示し、個に応じた指導を徹底し、つまずきを取り除き、知識・技能を定着させる。	4　90%以上の授業で基礎・基本の定着を意識して指導した 3　80%以上の授業で基礎・基本の定着を意識して指導した 2　70%以上の授業で基礎・基本の定着を意識して指導した 1　70%未満の授業で基礎・基本の定着を意識して指導した	3.3	B	A　学校評価アンケート「イ①①基礎基本習得」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「イ①①基礎基本習得」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「イ①①基礎基本習得」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「イ①①基礎基本習得」肯定的評価　55%未満	89	A	教員、保護者ともに日々の授業については概ね満足しているが、英語やICTといった特定の条件を付けると保護者評価が低くなる。これは具体的な授業の様子が保護者に伝わっていないことが要因であると考えている。特にICTについては教員の評価も低いことから、効果的な活用方法とはどんな使い方なのか定義できていないために、曖昧な評価になってしまっていると思われる。	ICTの効果を感じた授業の内容を情報共有をさせ、ICT効果について定義するとともに、その効果について保護者にも示していく。MNE学校公開では、その情報を提示したうえで授業を見ていただく。	学校が求める学力と、保護者が求める学力に乖離がみられるが、その差はなかなか理まらないだろう。最低限日常生活に困らない学力はつけてほしい。ただ、保護者が自分の子の学力課題にもっと関心を持つ必要もある。 ICT活用についてはどこを目指すのははっきりさせたい。ただ、ICT機器に偏らず、もっと指先を使う経験をさせてほしい、	B
			主体的に学びに向かう児童を目指し、国語【読むこと】に進んで取り組む学習態度を育てる。	4　全ての教育活動において意識して取組んだ 3　90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2　80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1　80%未満の教育活動で意識して取組んだ	3.2	B	A　学力状況調査「読むこと」、昨年度よりポイント以上上昇。 B　学力状況調査「読むこと」、昨年度よりポイント以上2ポイント未満上昇。 C　学力状況調査「読むこと」、昨年度よりポイント以上1ポイント未満上昇。 D　学力状況調査「読むこと」、昨年度よりポイント以下。	76	B				
		学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。	ALTと連携し、英語によるコミュニケーションを積極的に図る態度や、コミュニケーション能力を育成する。	4　100%の授業で実施 3　90%以上の授業で実施 2　80%以上の授業で実施 1　80%未満の授業で実施	3.1	B	A　学校評価アンケート「イ③①楽しく英語の学習に参加している」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「イ③①楽しく英語の学習に参加している」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「イ③①楽しく英語の学習に参加している」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「イ③①楽しく英語の学習に参加している」肯定的評価　55%未満	67	C				
			ICT機器等の積極的に活用し、一人一人の特性に応じた学びや協動的な学び合いを意識した授業の展開を図る。	4　ICTを効果的に使用できる100%の授業で実施 3　ICTを効果的に使用できる90%以上の授業で実施 2　ICTを効果的に使用できる80%以上の授業で実施 1　ICTを効果的に使用できる80%未満の授業で実施	2.6	C	A　学校評価アンケート「イ⑤①ICTを積極的に活用している」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「イ⑤①ICTを積極的に活用している」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「イ⑤①ICTを積極的に活用している」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「イ⑤①ICTを積極的に活用している」肯定的評価　55%未満	69	C				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	他者理解と自己理解を通して、一人一人の自己肯定感を醸成する。	道徳科の授業では道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し、道徳的実践力を育てる。	4　90%以上の授業で実施 3　80%以上の授業で実施 2　70%以上の授業で実施 1　70%未満の授業で実施	3.2	B	A　学校評価アンケート「ウ②③「規範意識や挨拶」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ウ②③「規範意識や挨拶」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ウ②③「規範意識や挨拶」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ウ②③「規範意識や挨拶」肯定的評価　55%未満	81	A	教員、保護者ともに概ね肯定的な評価であったが、読書の取り組みについては保護者評価が低い。今年度から学校便りの読書コーナーも新設するなど、読書活動に力を入れていることをアピールしているが、あまり伝わっていないようである。学校便りをテキル配信のみにしたことで、家庭内で目にする機会が減ったことも要因の一つかもしれない。 交通安全については重点課題であり、児童にも保護者にも機会あることに訴えたため、評価が高くなった。	読書月間の取り組みを学校内で完結させず、家庭にも子供への声掛けを呼び掛けたり、読書カードを工夫したりして、家庭もかかわれる形にする。 いじめ対応については「いじめ見逃しO」を最重要テーマとして、引き続き各取り組みを推進するとともに、教員研修等での教員の資質向上や保護者のさらなる意識向上に努める。	挨拶はよくできていると感じる。コロナ禍が明けて、子供たちの集団意識が戻ってきたように思う。 学校便りに本の紹介記事がとても良い。読書習慣の根幹は家庭である。親に読む習慣がないと難しい。学校の蔵書についても、大人が読ませたい本より、子供が読みたい本をそろえたい。漫画から入るのも有効である。	A
			心のアンケート・いじめ早期発見月間（年2回）・言葉づかい月間等を通して、いじめの見逃しをゼロにする。	4　全てのいじめに対して指導実施 3　90%以上のいじめに対して指導実施 2　80%以上のいじめに対して指導実施 1　80%未満のいじめに対して指導実施	3.5	A	A　学校評価アンケート「ウ①①いじめ防止」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ウ①①いじめ防止」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ウ①①いじめ防止」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ウ①①いじめ防止」肯定的評価　55%未満	81	A				
		児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も友達も大切にできる態度を養う	年2回の読書月間、教育計画に設定された朝読書、読み聞かせ会を通し、図書室を活用しながら読書の習慣を付ける。	4　教育計画に設定された予定の90%以上の指導場面で実施 3　教育計画に設定された予定の90%以上の指導場面で実施 2　教育計画に設定された予定の70%以上の指導場面で実施 1　教育計画に設定された予定の70%未満の指導場面で実施	3.2	B	A　学校評価アンケート「イ④①「読書をしている」肯定的評価　70%以上 B　学校評価アンケート「イ④①「読書をしている」肯定的評価　60%以上 C　学校評価アンケート「イ④①「読書をしているしている」肯定的評価　50%以上 D　学校評価アンケート「イ④①「読書をしている」肯定的評価　50%未満	49	D				
			交通事故防止や不審者対応の安全意識、ネットマナーなどの育成	4　安全教育の授業で月に1回以上指導実施 3　安全教育の授業で学期に2回以上指導実施 2　安全教育の授業で学期に1回以上指導実施 1　安全教育の授業で年に2回以上実施	3.4	B	A　学校評価アンケート「ウ④①「交通安全・ネットマナー」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ウ④①「交通安全・ネットマナー」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ウ④①「交通安全・ネットマナー」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ウ④①「交通安全・ネットマナー」肯定的評価　55%未満	87	A				
健やかな心と体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する.	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	体力テストの結果より、マッスルタイムを通して、計画的に短縄跳び・大縄跳び・時間走を行い、運動の日常化を図る。	4　指導場面の90%以上で実施 3　指導場面の80%以上で実施 2　指導場面の70%以上で実施 1　指導場面の70%未満で実施	3.1	B	A　学校評価アンケート「エ③①「運動やスポーツに取り組む」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「エ③①「運動やスポーツに取り組む」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「エ③①「運動やスポーツに取り組む」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「エ③①「運動やスポーツに取り組む」肯定的評価　55%未満	69	C	体力づくりの取り組みに関する保護者の評価が落ち込んでいる。これは学校ではマッスルタイム等の取り組みを計画通り行っているが、家庭での過ごし方が体力づくりとつながっていないためだと思われる。学校での取り組みと家庭での過ごし方の連携が必要である。	学校の体力づくりの取り組みを家庭にも周知するため、マッスルタイム期間にマラソンや縄跳びを宿題にしたり、ゲームや動画鑑賞と離れるデジタルデトックス期間を設けて家庭にも呼びかけたりする。 児童に規範意識に課題があるので、道徳授業の充実等に加えて、保護者の現状を知ってもらうために、保護者向け講演会を実施する。	休み時間先生たちが一緒に遊ぶ姿をよく見かける。子供たちもよく体を動かしている。 安全のために、本校の子供たちの顔見知りを増やし、声をかけられやすくする。そのためにも、近隣中学や高校との連携が必要であるから、交流を増やしてほしい。 給食試食会で保護者の食育にもつながった。	A
			低学年における体験的な食育の実践と定期的な全校での保健指導により、児童自ら健康を大切にする意欲を育てる。	4　全ての指導場面で実施 3　90%以上の指導場面で実施 2　80%以上の指導場面で実施 1　80%未満の指導場面で実施	3.0	B	A　学校評価アンケート「エ②①食育や生活習慣」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「エ②①食育や生活習慣」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「エ②①食育や生活習慣」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「エ②①食育や生活習慣」肯定的評価　55%未満	80	A				
		安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための全校体制を徹底する。	学習や遊びのルール、廊下・階段の歩行など「山小の約束」を守って生活する。	4　指導場面の90%以上で実施 3　指導場面の80%以上で実施 2　指導場面の70%以上で実施 1　指導場面の70%未満で実施	3.4	B	A　学校評価アンケート「ウ②①「きまりを守る」肯定的評価　80%未満 B　学校評価アンケート「ウ②①「きまりを守る」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ウ②①「きまりを守る」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ウ②①「きまりを守る」肯定的評価　55%未満	94	A				
			危機管理情報（健康・問題行動・安全等）を校内で共有する。	4　90%以上の必要情報に対して実施 3　80%以上の必要情報に対して実施 2　70%以上の必要情報に対して実施 1　70%未満の必要情報に対して実施	3.4	B	A　学校評価アンケート「ウ④①「安全意識が身についている」肯定的評価　80%以上 B　学校評価アンケート「ウ④①「安全意識が身についている」肯定的評価　70%以上 C　学校評価アンケート「ウ④①「安全意識が身についている」肯定的評価　55%以上 D　学校評価アンケート「ウ④①「安全意識が身についている」肯定的評価　55%未満	94	A				
その他													

取組指標の評価基準（結果数値からABCD評価へ）

取組指標平均　3．5以上	⇒	評語A
取組指標平均　3以上3．5未満	⇒	評語B
取組指標平均　2以上3未満	⇒	評語C
取組指標平均　2未満	⇒	評語D

※　学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

成果指標評価基準

成果指標平均　80%以上	⇒評価A
成果指標平均　70%以上	⇒評価B
成果指標平均　55%以上	⇒評価C
成果指標平均　55%未満	⇒評価D

学校関係者評価の評価基準例

A⇒　取組・成果ともに十分評価できる
B⇒　取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒　目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒　重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※　学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。